

校長室から  
(R元年度)

# ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 36

令和元年10月4日(金)発行

## ことばも思いやり ~自分を振り返ろう~

「おはようございます!」と、朝から元気のいいあいさつは気持ちがいいですね。受付員さんも、そんなあいさつをしてくれる子どもたちから元気がもらえると喜んでおられます。先生もそう思います。ことばって不思議ですね。

みなさんは、「言霊(ことだま)」って知っていますか? ことばに宿っていると信じられている不思議な力のことです。古代の日本人は、ことばに霊が宿っており、その霊の持つ力が働いてことばに表すと現実になると考えていました。言霊という話は万葉集(奈良時代)の和歌においてもうたわわと、のちの時代まで影響を与えています。

言霊が持つ力は、人の心をも左右します。少し自分のことを思い出してください。友だちから「ありがとう」「ごめんね」「ナイス」「すごい」等のことばをかけられたとき、どんな気持ちになりますか? 「うれしい」「やってよかった」「がんばろう」とうれしくなり心があたたかくなりますね。また、言った方も明るい気持ちになります。お互い笑顔になり、その笑顔でいっぱいになります。友だちのことを大事に思っている子は、自然といいことばを使うようになります。

逆に「うざい」「うっとおしい」「あほ」等のことばをかけられたときはどうですか? いやで悲しい気持ちになりますね。みなさんはどちらがいいですか? やっぱりいいことばで声をかけられたりする、そんな友だち関係がいいですね。そこには思いやりがあります。自分にも友だちにも心は見えませんが、でも本当に見えないのでしょうか。確かに心は誰にも見えませんが、心づかいは見えます。心づかいて何? 友だちが困っていたら「大丈夫?」と声をかけたり、助けたりしますよね。この心づかいで行う行為が思いやりです。「思い」は見えないけれど、ことばで、行動で、態度で伝えることができます。

みなさんも心があたたかくなるいいことば(魔法のことば)をたくさん使って、自分も友だちも周りの人達もいい気持ちになりましょう。少しずつ暑さも和らいでいきます。スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋。様々なことに挑戦しやすい季節です。心も磨いて、友だちと共に頑張っていきましょう。



## 読書ノート、目標達成おめでとう!

1年生の立岩亮人さん、永井陵吾さん、2年生の阿部希咲さん、3年生の宮城 凜さんが100冊、5年生の濱野由芽さんが50冊の読書目標を達成し、前期の応募をしました。11月頃(日は未定)の朝日新聞デジタル(全学年)と朝日新聞(5・6年生のみ)に名前が掲載されます。おめでとうございます。これからも読書を楽しんで続けてくださいね。

後期の応募は、来年の2月20日(木)~28日(金)です。みなさんも応募に向けて、これから意識して読書を始めませんか。1~4年生は100冊、5・6年生は50冊で目標達成です。



多くの友だちと遊び、対話することで心も体も育つ。  
でも、それだけではもう一歩。  
一人で活字と向き合う時間もなくちゃダメ。

本を読めば、心が育つ。感性が磨かれ、夢が広がる。

新聞を読めば、頭が育つ。論理が磨かれ、社会とつながる。



「セレンディピティ」という言葉がある。ノーベル賞受賞者がよく口にする言葉である。地道に研究を続けるうちに偶然の発見があるときなどに使う。

最近では効率よくムダのない知識の獲得の仕方や調べ方が当たり前になり、寄り道や回り道のような非効率的な方法は、まるで悪いかのように考えられることもある。

でも、子どもたちには寄り道の学習を経験させよう。大きな紙面の新聞を読んでいるうちに何となく目に入ってくる見出しに大喜びする出会い、そんな小さなセレンディピティが必ず子どもたちを育ててくれる。